

「あゆみ」を次の目標設定につなげてほしい

今日は1学期終業式。子どもたちは担任から「あゆみ」（通知表）を受け取ります。1学期の成果が記された「あゆみ」はどうしても「よかった」「わかった」「まあまあだった」とかいう過去の総括になりがちです。でも、庄内小学校の子どもたちには、この「あゆみ」をぜひ次の目標設定にいかして未来につながるような読み取りをしてほしいのです。そんな願いを込めて「あゆみ」で語呂合わせをつくり、終業式で子どもたちに以下のような話をしました。

「あゆみ」の **あ** は、新しい目標を見つけるため

「あゆみ」の **ゆ** は、夢を叶える力を身につけるため

「あゆみ」の **み** は、魅力ある自分と出会うため

この3つの視点で「あゆみ」を読み、1学期の自分を振り返るとともに、子どもたちには、ぜひ次の目標を設定してほしいのです。これから始まる夏休みは、40日もあります。目標をしっかりとって、それに向かって継続的に取り組むことができれば、きっと成果がでます。「あゆみ」が、子どもたちの成長や成果につながれば、これほどうれしいことはありません。

夏休み前の庄内小は、あたたかい言葉であふれている

左の写真は、友達への感謝の言葉や、友達のいいところを見つけをしたカードを、各クラスでデザインに工夫を凝らして掲示物にしたものです。学校全体の取組で、どこのクラスも、教室や廊下に掲示しています。

カードには、「給食時間に牛乳をこぼした時、何人もの友だちが拭くのを手伝ってくれて、うれしかった。」とか「昼休みの外遊びから帰って、真っ赤な顔をしているのに、すぐにそうじにとりかかる友達を見てすごいと思った。」とか「算数の時間に難しい問題で困っていると、〇〇さんがやさしく教えてくれてありがたかった。」とか書いてあります。どれもささやかな日常の一場面です。でも、子どもたちが感じた友達への感謝の気持ちや尊敬の念が確かに表れています。カードを読んでいると一つ一つのその場面が目浮かぶようです。

